第110期｜事業報告
2023年1月1日～2023年12月31日

Vol.46

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE

グローブ

◆ 事業概況のご報告
- 株主の皆様へ
- トップインタビュー
- 化学品事業/化粧品事業

◆ 中期経営計画
- 中期経営計画「INNOVATION25」
- 業績予想

◆ TOPICS

NICCA

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年12月期(第110期)決算概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、ウクライナ情勢の長期化や中東地方の紛争発生などの地政学リスクに加え、米欧の金融引き締めや中国景気の減速などから、依然として不透明な状況が続いております。また、わが国経済は、新型コロナウイルスの第５類への移行後、経済活動の正常化が進み、経済環境には持ち直しの兆候も見受けられますが、円安の進行を背景として資源及び原材料価格は高騰し、物価の上昇が継続している中で消費者マインドは停滞し、国内における経営環境は厳しい状況となっております。

このような中、当社グループは中期経営計画のスタートにあたり、この先20年、30年という長期スパンで何を目指していくのかを考え、企業パーパスを「Activate Your Life」と定めました。「Activate Your Life」とは、ステークホルダーとともに、無限に広がる界面カガクのチカラで様々な社会課題を解決し、より豊かな暮らしや輝く未来に貢献することです。

この企業パーパスに基づき、中長期成長ビジョンとして『世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー』を掲げ、3か年中期経営計画『INNOVATION25』(2023-2025)を策定し、現在、中期経営計画の５大戦略である「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」「生産性改革」「サステナブル経営の推進」「大家族主義の進化」の推進に取り組んでいるところであります。

今後も激変していく経営環境をビジネスチャンスへと昇華し、社会からますます必要とされる価値を提供する事業に注力し永続的成長を目指してまいります。

代表取締役社長
江守康昌

◀決算報告2023年12月期
(動画9:12)視聴

中期経営計画

5大戦略は 大きく変更せず
「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」
「生産性向上」を加速させることが数値目標達成の鍵

INNOVATION25「5大戦略」

戦略1	事業構造の大転換	EHD※事業へのシフト
戦略2	メリハリのある投資	注力事業への安定投資、投下資本収益性向上
戦略3	生産性改革	デジタルトランスフォーメーションの積極推進
戦略4	サステナブル経営の推進	持続可能な社会への貢献
戦略5	大家族主義の進化	社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進

※「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」

企業パーパス

▲「Activate Your Life」
紹介ページ

トップインタビュー

2023年12月期の決算を発表されましたが、どのような内容だったのでしょうか？

まず総括といたしまして、2023年12月期は、売上高は前年並み、営業利益は減益となりました。上期は非常に厳しい状況でしたが、下期の回復が著しく、今後の業績成長に繋がるものと考えています。化学品事業におきましては、下期は売上・利益共に半期ベースで過去最高水準となりました。化粧品事業におきましては、上期に集中させた戦略新製品の大型プロモーションにより、外部環境が厳しい中でも増収となり、利益率も下期には前年並みに回復しました。

2024年12月期は、化学品事業において引き続き構造改革が進むと見込んでおり、全体で増収、増益を計画しています。

2023年12月期の業績は、売上高501億6,900万円、営業利益20億3,900万円、経常利益25億2,800万円、当期純利益16億9,100万円となりました。

セグメント別の業績ですが、１つ目のセグメントの化学品事業は、売上高356億500万円、セグメント利益18億300万円で下期は売上・利益共に半期ベースで過去最高水準となりました。

欧米でのアパレル在庫調整の想定以上の長期化による需要低迷や、第1四半期の中国でのコロナ急拡大により想定外の低稼働がありましたが、インドとバングラデシュでのビジネスが成長しており、またインバウンドの回復によりリネンサプライ用薬剤の販売が増加した事などが主な要因です。

次に２つ目のセグメントの化粧品事業は、売上高139億7,700万円、営業利益20億4,400万円となりました。

主な要因ですが、美容室の来店客数が想定以上に減少した影響を受けたものの、デミ コスメティクスの新商品拡販などが堅調で、子会社の山田製薬における受託事業と韓国のデミ コリアでの販売も好調でした。上期の新商品拡販に向けた戦略的プロモーション投資等で販管費が増加しましたが、下期の利益率は前年並みに回復しています。

改めて、下期業績について説明いたしますと、化学品事業では、不採算製品の統廃合、価格改定、EHD※シフトの推進、コストダウンを推進した事で、下期セグメント利益は上期比で3倍となりました。化粧品事業では、新商品効果や販管費が上期比で減少したことから、下期セグメント利益は上期比で40%増となりました。これらによって下期業績が回復し、特に化学品の利益面での回復が顕著でした。

※「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」

2023年12月期（第110期）決算概況

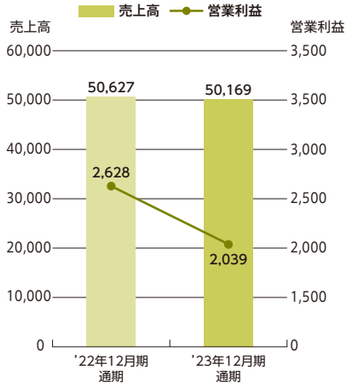
売上高
501億6千9百万円　0.9%減

営業利益
20億3千9百万円　22.4%減

経常利益
25億2千8百万円　19.3%減

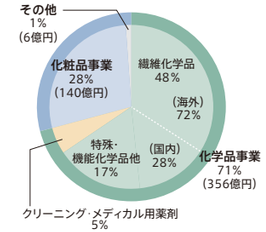
親会社株主に帰属する当期純利益
16億9千1百万円　20.0%減

売上高・営業利益の推移

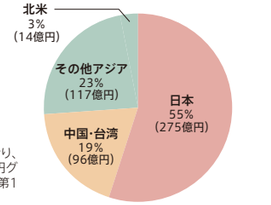


（単位：百万円）

事業別売上高比率



地域別売上高比率



【P3-4における記載数値について】
※すべて連結の情報です　※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期における各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております　※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております（円グラフは1億円未満を切り捨てて表示しております）※%表示は前年同期比で小数点第2位を四捨五入して表示しております（円グラフは売上高比率で小数点第1位を四捨五入して表示しており、合計は100%にならない場合があります）

化学品事業

繊維化学品
●繊維加工の一連の工程（精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤

機能化学品
●水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
●フッ素・シリコーン等の工業用薬剤

クリーニング・メディカル用薬剤
●業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
●医療用器具・福祉分野用洗浄剤等

先端材料
●機能性人工核酸、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料

売上高　356億5百万円　1.8%減

セグメント利益　18億3百万円　3.1%減

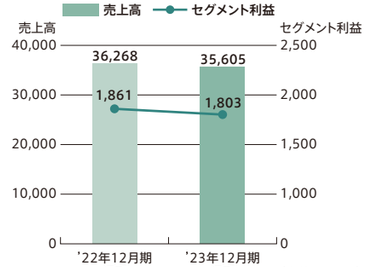
【売上高】◆繊維化学品分野
- ＋インド・バングラビジネスの成長
- －欧米アパレル在庫調整長期化による需要低迷（想定以上）も3Q以降一部で回復傾向
- －1Qのコロナ拡大による中国低稼働（想定外）も回復基調

◆クリーニング薬剤分野（国内）
- ＋インバウンド回復によるリネンサプライ用薬剤販売増

◆半導体加工薬剤分野
- －半導体市場不況の影響も回復傾向

【利　益】－利益減も下期利益額は半期ベースで過去最高水準

［売上高・セグメント利益の推移］



（単位：百万円）

化粧品事業

美容室向け頭髪用化粧品
●「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM
●頭髪用化粧品の相手先ブランド受託生産

一般通販
●スキンケア基礎化粧品ブランド「アンサージュ」のインターネットによる通信販売

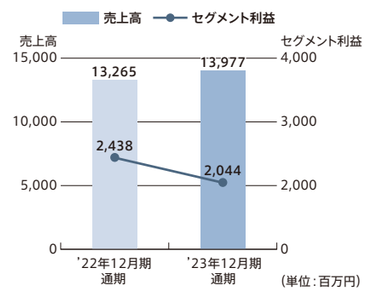
売上高　139億7千7百万円　5.4%増

セグメント利益　20億4千4百万円　16.2%減

【売上高】＋日華化学デミ コスメティクス新商品拡販等で堅調
＋山田製薬堅調、デミ コリア好調
－美容室来客数の減少（想定以上）による影響受け

【利　益】－上期の積極的なプロモーション活動実施による広告宣伝費等増で減益も、通期増収、下期利益率は前年並みに回復

［売上高・セグメント利益の推移］



（単位：百万円）

中期経営計画「INNOVATION25」

弊社は、世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニーを目指すべく、中期経営計画「INNOVATION25」を公表しており、2025年12月期の売上高は570億円、営業利益40億円、ROS7%を計画しています。

2023年から2025年を新しい成長スパイラルを固める3か年と位置付けており、「事業構造の転換」「収益性改善」「成長分野への積極投資」を推進しています。

■中期経営計画「INNOVATION25」の5大戦略として、
戦略１）事業構造の大転換　EHD事業へのシフト
戦略２）メリハリのある投資　注力事業への安定投資、投下資本収益性向上
戦略３）生産性改革　デジタルトランスフォーメーションの積極推進
戦略４）サステナブル経営の推進　持続可能な社会への貢献
戦略５）大家族主義の進化　社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進
に取り組んでおります。

戦略１）事業構造の大転換

大きな社会課題である「E/環境」「H/健康・衛生」「D/先端材料」領域に事業を集中させる「EHDシフト」を推進してまいります。

特に化学品事業のEHD売上高比率は向上余地が大きく、2023年のEHD売上高比率39%を2025年には50%以上とすることを目指しています。また、EHD製品の利益率は35%と従来製品の25%と比較し高利益率であることから（2025年計画値）、EHD製品の売上高比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる計画です。また化粧品事業においては、積極的な投資を行い、強みである商品企画・開発力に加え、従来行ってこなかったマーケティング・プロモーションの本格展開によるシェア拡大により、事業拡大を加速させてまいります。

2023年は化学品事業におけるEHDシフトは順調に進んでおり、化学品事業の利益率は28%と効果が出始めていると評価しております。

◎/今後特に注力 ○/注力

日華化学が注力するEHD領域		化粧品事業	化学品事業		
			繊維化学品	クリーニング&メディカル	スペシャリティケミカル
環境 Environment	お客様の生産工程の環境を改善（省エネ・節水、脱炭素、環境改善、廃棄物削減など）	—	◎ 薬剤による工程短縮、節水ほか	○ 薬剤による工程短縮、節水ほか	◎ 半導体ウェーハ加工クーラント剤回収・リサイクル
	環境負荷の小さい原料や容器へ切替	◎ 植物由来原料や環境に優しい容器	◎ バイオ由来原料やリサイクル原料	○ バイオ由来原料やリサイクル原料	◎ 溶剤系→水系化
健康・衛生 Health	人を健康にする・キレイにする	◎ 毛髪・頭皮をより健やかに、キレイに	○ スポーツウェアなどの機能を進化	○ 健康で清潔なくらしへ	—
	衛生管理、抗菌・抗ウイルスなど	○ 手指洗浄剤	◎ アパレル・インテリアなどの抗菌・抗ウイルス	◎ 薬剤による感染制御	—
先端材料 Digital	次世代通信やナノテクノロジーを支える新たな界面課題に対応	—	—	—	◎ 高周波用低誘電材料など
	お客様の生産現場のデジタル化を促進	—	—	◎ 薬剤管理供給システムの提案	—

戦略２）メリハリのある投資

EHDシフトと効率化への投資に集中し、ROICで事業毎の投資効率を管理してまいります。借入金は2023年は92億円と2019年の195億円から半減以下に、自己資本比率も2019年の37%から53%と飛躍的に改善しております。今中期経営計画期間内の投資は営業CF内で行いDEレシオを意識したバランスの良い財務体質を目指しております。

投資／財務	中期経営計画（2023～2025）	2023年実績
	●メリハリのある投資 •3年間トータル100億円投資 •ROICを重要指標とし、成長分野×投資効率の高い案件に絞る	•23年投資実績13億円。既存設備の改修・更新が中心。 •化粧品、化学品成長領域への大型投資は今後各事業のROICを睨みつつ選別、実施予定。
	●財務体質の改善	•自己資本比率53%に向上（22年実績＋3pt） •戦略的投資期間（2017～2019）の借入金は半減

戦略３）生産性改革

デジタルトランスフォーメーションの積極推進により、効率アップ&PH（一人当たりの生産性）向上を図ると共に、様々なデータを分析・活用することにより新たな価値創出につなげてまいります。

2023年は新人事ポータルシステム導入や、業務への生成AI利用開始など業務効率化のためのDXを推進しております。

戦略４）サステナブル経営の推進

環境分野では地球環境をもっときれいに、くらしの分野では人々のくらしと生活を快適に、社会分野では社会をより豊かに、を重要課題としております。目標値として2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を2018年比30%削減としておりますが、2022年にはすでに24%の削減をしています。また、コロナ禍における福井県内の中学生の修学旅行の受け入れや、美容師を目指す美容学校の生徒を対象として独自の奨学金制度を設立。少子化や働き方改革による美容業界の課題解決を目指し、学生をバックアップしております。

マテリアリティ（重要課題）　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境 地球環境をもっときれいに	•グループ全体のCO2実質排出量削減
くらし 人々のくらしと生活を快適に	•EHD事業による社会課題を解決する事業活動
社会 社会をより豊かに	•仕事を通じた社会貢献活動の推進　など

戦略５）大家族主義の進化

弊社の掲げるEHDシフトにより、会社も個人も社会課題の解決に向き合い、自ら難しい仕事に挑み成長を惜しまない社員の取組みや成果を公正に評価することで、ひとりひとりの仕事のやりがいや楽しさが高まる、この様な循環で持てる力を最大限に発揮できる、厳しくも温かい大家族主義の実現を進化させてまいります。

『EHDシフト』
•会社も個人も社会課題解決に向き合う
•仕事のやりがい・楽しさが高まる
→ 社員と会社の絆 エンゲージメント
→ チャレンジ
•自ら難しい仕事に挑む
•成長の努力を惜しまない
→ 人事制度の大方針
•成果は“公正に”評価
→ 厳しくも温かい大家族主義

業績予想

2024年12月期の業績・配当予想と施策について

2024年12月期の業績予想は、増収増益を計画しています。売上高535億円（前年比6.6%増）、営業利益25億円（前年比22.6%増）、経常利益27億円（前年比6.8%増）、当期純利益は18億円（前年比6.4%増）を見込んでおります。配当金につきましても、32円から2円増配の34円を予定しています。

施策
【化学品】更なる収益性向上　【化粧品】新製品・メンズブランド、デジタルプロモーション継続による国内シェア拡大
【全社】人への投資強化

化学品事業	・EHDシフトの推進 ・戦略的グローバル調達の推進 ・不採算製品の統廃合 ・原料・物流コスト増に対応した価格改定や採算是正
化粧品事業	・スカルプケア「DEMIDO」、ヘアカラー「トイロクション」導入サロンでのシェアアップ ・メンズブランド強化 ・デジタルプロモーションの継続

TOPICS

アートネイチャー社と共同開発 男性用ウィッグを新発売

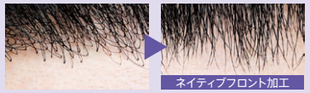
2023年 11月

当社「ネオクロマト加工」技術を応用し、人工毛髪の根元を脱色することで、よりリアルな仕上がりを実現。

■当社「ネオクロマト加工」

分散染料で染色したポリエステル生地に脱色が可能
（染色・捺染・昇華転写等対応可能）

■男性用ウィッグ「レクアファントム」



生え際の毛髪の根元部分の色を地肌にとけこませる新技術でご自身の生え際を再現したような自然さに

写真：アートネイチャー社公式サイトより引用

デミ コスメティクス新商品 新メンズブランド「CARAVAN」 2024年1月16日発売

2024年 1月

バーバースタイルに特化したメンズブランド。武骨で男性的な色気を演出する、スタイリング中心に９アイテムの商品ラインナップ。バーバー界のカリスマでもある「WOLFMAN BARBER SHOP」曽原猛氏がブランドコンセプトを監修。

ニトリ・帝人フロンティアとの共同開発 「Nシールド ファブリック」の採用拡大

汚れ・ひっかきに強い「Nシールド ファブリック」シリーズ

ニトリ×帝人F×NICCAの３社コラボレーション。抗菌防臭・抗ウイルスダイニングテーブルセット、学習机に次ぐコラボ第３弾。毛玉が出にくい抗ピリング加工、糸の飛び出しを防ぐ抗スナッグ加工、汚れにくく落としやすい防汚加工により、ペットやお子様のいる家庭でも快適に使用いただけます。

デミ コスメティクス新商品 新メンズブランド「XFLEEK(エクスフリーク)」 2024年3月5日発売

2024年 3月

人気の高いパーマスタイルと相性の良いアイテムを中心に、スタイリング、ヘアケア、スキンケア、さらにデミ コスメティクス初となるアイブロウケアアイテムを展開するなど、豊富なラインナップでトレンドを担う世代の「なりたい自分」への実現を叶えます。

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2022年12月31日	当連結会計年度 2023年12月31日
流動資産	29,855	31,077
固定資産		
有形固定資産	22,411	21,889
無形固定資産	399	498
投資その他の資産	3,455	3,452
資産合計	56,122	56,918
流動負債	15,987	15,776
固定負債	9,742	8,320
負債合計	25,729	24,096
株主資本		
資本金	2,898	2,898
資本剰余金	2,951	2,951
利益剰余金	21,006	22,145
自己株式	▲1,449	▲1,429
純資産合計	30,392	32,822
負債純資産合計	56,122	56,918

大株主（上位10名）

（単位：千株）

株式会社江守プランニング	2,370	14.63%
日華共栄会	1,676	10.34%
長瀬産業株式会社	1,407	8.69%
日華化学社員持株会	674	4.16%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	553	3.42%
公益財団法人江守アジア留学生育英会	500	3.09%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	381	2.35%
株式会社福井銀行	344	2.12%
INTERACTIVE BROKERS LLC	313	1.94%
宗教法人歓喜寺	268	1.66%

（注）1.持株比率は自己株式（1,508千株）を控除して計算しています。2.持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は少数第3位を四捨五入して表示しております。

会社概要

商　　号　日華化学株式会社
資 本 金　28億9,854万円
所 在 地　〒910-8670 福井市文京4丁目23-1
T　E　L　(0776)24-0213(代)
事業内容　1. 繊維工業用界面活性剤の製造、販売
　　2. 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売
　　3. クリーニング、業務用洗剤の製造、販売
　　4. 化粧品・医薬品の製造、販売

役員

代表取締役社長	江守　康昌	取締役（社外）	相澤　馨
代表取締役副社長	龍村　和久	取締役（社外）	山岡　美奈子
取締役	児島　大司	取締役（社外）	坂本　修一
取締役	澤崎　祥也	取締役（社外）	朝倉　浩一
取締役	李　晶日	監査役	宮本　和浩
取締役	稲継　崇宏	監査役（非常勤）	川村　一司
取締役	藤森　大輔	監査役（非常勤）	増田　仁視

発行／日華化学株式会社　発行月／2024年3月 通算46号

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2022年1月1日から 2022年12月31日まで	当連結会計年度 2023年1月1日から 2023年12月31日まで
売上高	50,627	50,169
売上原価	34,456	33,652
売上総利益	16,171	16,516
販売費及び一般管理費	13,543	14,476
営業利益	2,628	2,039
営業外収益	614	635
営業外費用	110	146
経常利益	3,132	2,528
特別利益	147	5
特別損失	11	9
親会社株主に帰属する当期純利益	2,114	1,691

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期から適用しております。

連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2022年1月1日から 2022年12月31日まで	当連結会計年度 2023年1月1日から 2023年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,317	4,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲885	▲876
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,962	▲1,740
現金及び現金同等物の期末残高	6,263	7,977

株式の状況（2023年12月31日現在）

発行可能株式総数　44,932,000 株
発行済株式の総数　17,710,000 株
株　主　数　4,376 名

株主メモ

事 業 年 度　毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会　毎年3月下旬
基 準 日　定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
　　中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人　東京都千代田区丸の内1丁目4-1
　　三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先　〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4
　　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電 話 照 会 先　フリーダイヤル 0120-782-031
　　※取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所　東京証券取引所スタンダード市場・名古屋証券取引所 プレミア市場
一単元株主数　100株
証 券 コ ー ド　4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

CP（IR情報フォーマット）▶

<IR活動アンケート>
今後のIR活動の参考にさせて頂きます。皆様のご要望等をご記入いただきます様、よろしくお願い申し上げます。

日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO., LTD.

さらに詳しい情報・バックナンバーは
www.nicca.co.jp